

高瀬川だより

NPO法人京都高瀬川繁栄会会報
編集人 田村佐起三〒六〇四一八〇〇一
京都市中京区木屋町通三条上ル
電話 (〇七五) 二五三・〇七〇七

『揺れる情(こころ)』通信⑮

稲荷山武田病院院長 土屋宜之「京都医療センター緩和ケア創設者

緩和ケアスタッフが患者様と情(こころ)を共有することができた時、患者様が自分の心を許すことができればそれは安心に繋がります。安心とは「納得しても」「諦めても」「決心しても」もう未練はないと思えば得られるものです。しかし痛みと戦っている人は、中々安心を得られません。鎮痛剤で時でも痛みから解放されれば、束の間の安心が得られます。もう一つの方法は信仰を持つことです。人は色々な努力をしているのです。患者様のFさんは「音もなく散つてゆく桜の花のように、切なさの肩に積もり積もっていきまします」と言われました。Fさんは積もり積もった切なさを背負いながら、しかし情(こころ)を共有してもらった安心感に浸って逝かれました。

緩和ケアとは非力であることを痛感しますが、日本人の情(こころ)を受け継いでいく哀切な仕事を受け持っているのかもしれない。

京都国立近代美術館

9月13日～11月24日

《LOVEファッショナー私を着がえるとき》

服を着ることは人間の普遍的な営みの一つです。そして装いには私たちの内なる欲望が潜み、憧れや熱狂、葛藤や矛盾を伴って表れることがあります。

着る人のさまざまな情熱や願望「LOVE」を受け止める存在としてのファッショナーそこには万華鏡のようにカラフルな世界が広がっています。

今回の展覧会ではKCI所蔵の衣装コレクションを中心に人間あるいは生物の根源的な欲望や本能を照射するアート作品とともに、ファッショナーとの関わりにもられるさまざまな「LOVE」のかたちについて考えます。

展覧会を通して服を着ることの意味について再び考えてみませんか。

《「愛」と「恋」》 常楽臺住職 今小路覚真

「愛」と「恋」と、どちらがいいですか、と問われたらわたしの返答は「恋」です。

違いを聞かれても詳しくは分かりません。でも、「愛」はなんだか人間のむき出しの姿を見せている言葉の代表のように受け取ります。

「愛」は常に二つの心が対立している様子を示します。そしてそこでは一方が是であり、一方が非と扱われています。また性欲の充足だけが求められているようにも受け取られる言葉です。

一方の「恋」は、静かな趣きがあります。「愛」はむき出しです。激しい言葉です。

恋人同士と愛人同士とは、その人間関係はずいぶん違います。愛ゆえの闘いはありますが、恋はせいぜい「さや当て」ぐらいです。愛するがゆえの傷はありますが、恋することによる傷は、あつてもかすり傷です。

仏教では「愛」という言葉を用いることはまずありません。代わりになるのは「慈悲」です。ほとけの恋心です。ほとけはわたしを罰したりはされません。

《ナチュルチーズからプロセスチーズ》 イタシヨク 福村直

チーズは大きく2つに分けると古代から製法で素材を活かしたナチュルチーズと、1920年代頃に開発されたサイコロ型に代表されるプロセスチーズとなります。プロセスチーズは原料となるナチュルチーズを配合したチーズとなり、希望する味わいに合わせ風味、硬さ、脂肪含有量等を考慮して混合比を決定します。そして溶融殺菌することでカビの発生を抑え保存が利きやすい利点を持ちます。いささか味わいは単調で個性が足りないともいえますが、肉やナッツ類などを混ぜ込み、香辛料で味付けをして全く新しい味を持ったチーズにすることもできます。

歴史こそ比べると短いですが、企業はこうして独自の味わいと安定あるチーズの大量生産を可能にしたことで、日本でも高度経済成長期から食卓を彩ることとなりました。ヨーロッパよりも日本やアメリカで多く作られているのも特徴と言えます。

9月レシピ 栄養士 國松美也子

《まだまだ残暑が残る9月!》

すっかり食べて残暑を乗り切りましょう!

☆かぼちゃのそぼろ煮(4人分)☆

材料/かぼちゃ1/4・鶏ミンチ100g、砂糖大さじ3、濃口醤油大さじ1、水溶き片栗粉(大さじ1+水大さじ1)作り方

①かぼちゃ1/4を食べやすい大きさにカットし、皮を下にしてお鍋に並べる。

②水400cc砂糖大さじ3を①に入れて蓋をして、かぼちゃが柔らかくなるまで煮る。

③②の鍋に鶏ミンチを入れほぐし、ミンチに火を通す。最後に醤油を大さじ1を入れて味を整え、最後に水溶き片栗粉でとろみを付けて完成。

*カボチャに含まれる栄養素には、免疫機能低下の防止・アンチエイジング効果がある「β-カロテン」、高血圧やむくみ予防効果のある「カリウム」があります。また、免疫機能の低下を防ぐ「ビタミンC、E」も豊富です。

《大原流声明雑話②》 實光院住職 天納玄雄

大原寺は創建以来、天台の念仏の行場として発展してきた側面がある。勝林院の寂源上人は念仏行によつて往生したと伝記に記され、来迎院の良忍上人は融通念仏を提唱して人々に広めた。こうした古くからの信仰基盤があったからこそ、勝林院は法然上人の大原問答の舞台となったのだろう。

さて、今年は寂源上人没後一千年の年であり、同時に浄土宗開宗八百五十年の節目でもある。そこで勝林院本堂内で毎年秋彼岸の頃に行っている非公開文化財の特別公開は「大原寺の阿弥陀仏信仰」と題した展示を行う。法然上人像から取り出された舍利を収めた舍利塔や、中世の阿弥陀仏来迎図などを展示予定だ。会期などの詳細は勝林院の公式ウェブサイトで確認いただきたい。